

今月の本だな【9月号】

『なぜ僕らは働くのか - 君が幸せになるために考えてほしい大切なこと - 』

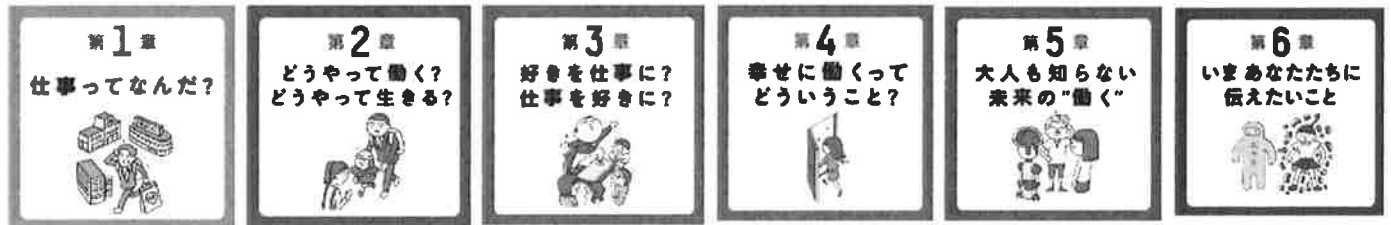
文：高田 弘



監修：池上彰
 マンガ：佳奈
 イラスト：©モドロカ
 発行：学研プラス 227 ページ ¥1500
 ※ 著作物の複製は学研の許可済みです



— 将来ためのヒントがたくさんつまっている、やさしさあふれる本です —



子どもたちに自信を与えてくれる本です。1～6の章に分かれ、ストーリーを追った形式で働くということについてふれています。各章の冒頭は上の図にあるテーマに関するマンガになっていて、それに続く解説文とイラストという構成になっています。マンガは温かみのあるタッチで登場人物の優しさあふれる描写がなんともいえません。解説文はポイントとなるところが一目でわかるようにマーカーもどきの色がつけてあります。イラストも社会活動が一目瞭然になるように視覚化してあり、かつシュールなタッチが重い課題を優しく包んでいます。章の最後にテーマに関する働く人の声をコラム形式で紹介してあります。この流れで終章まで続きます。

マンガの主人公は、中学受験で合格するも勉強についていくことができず父を残して、母の実家の広島市の公立中学校に転校することになった中学2年生の男子。その地で叔母がデザインを担当する本作りを通して、仕事の見つけ方、働き方、幸せに働くとはどういうことか、自分自身への向き合い方などそれまで漠然としていた将来像が次第に具体化していくというストーリーです。

各章のテーマの解説も「こうすれば」や「これはこうです」という上から目線の文言は一切使われておらず、むしろさまざまな見方を紹介しています。「いろいろな考え方や捉え方があっていいんだよ」というのがよく伝わってきます。働き方に正解はなく、やり直せることを知り、自分に合った働き方を見つけるガイドブックであり、悩める子どもたちに寄り添うキャリア教育本でもあります。リビングのテーブルに置いておきたい本です。

巻末には10歳から65歳までのさまざまな職業の協力者235名の名簿一覧が掲載されていて多くの人々の声の反映がこの本の発刊に関わったことがわかります。また、類似書の紹介や参考文献も充実しています。さらに索引(さくいん)は時事問題に出てくる言葉(SDGs、エシカル消費、レジリエンス・・・)が並べてあり、社会の勉強にもなります。